

■はじめに

からだといへく〈対談〉湯浅泰雄+石川中

■第一章

東洋的心身論と現代

1 東洋の修行の伝統と西洋の心身二元論的思考様式 23

2 静止的瞑想と運動的瞑想 24

3 瞑想の深層心理学的意味と心理療法 29

4 瞑想と心身一如 34

5 修行と苦道 42

6 日本武道の特質 46

7 心身分離的二元論から心身相関的二元論へ 53

8 身体の三つの情報システム 62

9 条件反射と自律系コントロール 70

10 方法論的反省 86

H・ヤスグロ『道教の養性術』 94

坂本百大『人間機械論の哲学』—心身問題と自由のゆへん 105

■第二章

「気」と身体——武術・瞑想法・東洋医学

1 心・気の「氣」 111

2 瞑想の訓練は気を変容させよ 113

3 気の変容 121

4 気の変容に伴う内的イメージ体験の諸相 129

4 気の変容に伴う内的イメージ体験の諸相 137

■第三章

黙示の時代——G・アーモラー『生きいこむ象徴』

樋口和彦『ボンг心理学の世界』 210

5 東洋思想における認識の意味——方法論的中間考察 146

6 東洋医学の身体観の基本的特質 149

7 経絡における気と情動の関係 158

8 無意識的準身体における外界志向作用 168

9 記憶と生ける身体 176

10 客観的科学と主観的科学 185

11 気と外界の関係 191

12 心・生命・物質 199

■第四章

淨土の瞑想の心理学

1 はじめて 225

2 精神医学と宗教経験 226

3 インド的伝統にみられる思想表現と芸術表現の関係 228

4 中国と日本における淨土の念仏 240

5 定善觀の心理学的解釈 244

6 死の問題 251

シャルトルと最終章 259

■エッセイ

■エッセイ 263

■エッセイ

■エッセイ 267

■第四章

密教の修行論とマンダラの心理学——身体的心理学

1	歴史的背景——山の仏教	275
2	密教の深層心理学的背景	276
3	『即身成仏義』の修行觀と宇宙觀	282
4	イメージとしてのマンダラ	296
5	マンダラの深層心理学的考察	305
(1)	胎藏生マンダラ	316
(2)	金剛界マンダラ	326
	■あとがき	343